

研究タイトル: Communicative Language Teaching: Theory and classroom practice in EFL learning



氏名:	照沼 理英 / Rie Terunuma	E-mail:	terunuma@ge.ibaraki-ct.ac.jp
職名:	講師	学位:	MA Teaching and Learning
所属学会・協会:	IATEFL (International Association of Teachers of English as a foreign language), 語学教育研究所		
キーワード:	TESOL, 英語教授法, CLT, Teaching and Learning, Reflective practice, Adult education		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を用いたコミュニケーションスキルに関する内容 ・海外留学・海外研修の事前指導 ・TOEIC, IELTS, TOFL, 英検の受験指導 		

研究内容: Communicative Language Teaching における Interaction

Communicative Language Teaching (CLT) CLT は、実際のコミュニケーションに使える言語運用能力を養うことを目的とした教授法であるが、その概念はかなり包括的である。よってさまざまな解釈が可能であるが、次に挙げるのは CLT の一般的な特徴である。

(1) Communicative Language Teaching (CLT) の特徴

- ① 学習者間で頻繁な interaction が行われる (教師から生徒への一方向型授業ではない)
- ② テキストは authentic なもの(言語教育を目的としたものでないもの)を使い、実生活に関連のある活動を取り入れる
- ③ 学習者中心(Learner-centered) であり、学習者のニーズや目標を考慮し、学習者にとって「意味のある」活動を行う

(2) Strong and Weak Forms of CLT

前述のように、CLT はかなり包括的な概念であり、weak form と strong form が存在する。

Weak form: form と meaning の関係を意識させる為の練習も取り入れる(コミュニカティブ・アプローチ)

Strong form: 特別 form を意識させるような活動は行わず、対象言語に接することで自然と form も身につくという考え方に基づいている ex) Task-based instruction, Content-based instruction, イマージョン教育

(3) CLT における interaction 外国語授業では、性質の異なるインタラクションが存在する。①教師・学習者が授業タスクにフォーカスしている時の「タスク・フォーカスト・トーク」(task-focused talk)②そこに混入する「レス・タスク・フォーカト・トーク」(less-task-focused talk) である。

学習者・教師による授業中の、学習・指導的でないインタラクション中にも、学習者にとってインパクトの強いインタラクションが起こる。それぞれの特徴をcommunicative competenceの側面から考察する。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	